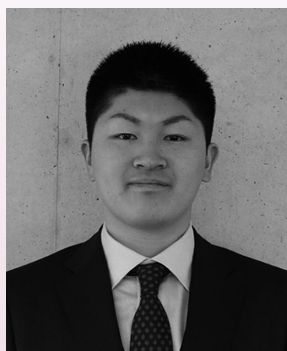


# 成人式

1月7日、えずこホールで平成30年成人式が挙行されました。この式典では、新成人が大人としての一步を踏み出し、これからの社会を築き背負っていく節目の日であることを出席者全員で確認します。その決意を、代表の2名が「二十歳に思う」として発表しました。

「出会い」を糧として



菊地 太郎さん  
(原前区)

本日、成人を迎えた私たちの門出に対し、このように盛大な成人式を催していただき、誠にありがとうございます。また、お祝いや激励の言葉をいただきました大原町長齋清志様を始め、ご来賓の皆様、ご出席いただきました皆さまに、心より御礼申し上げます。

この大原の地に生を受けてから、成人としての新たなスタートを切った今日までの20年間、そのなかで、私は多くの「出会い」に恵まれたと思っています。

小学生の頃に出会った野球は、日々の地道な努力の積み重ねが良い結果

に繋がることと、それを共に汗を流した仲間たちと分かち合える喜びを、私に教えてくれました。また、現在大学で専攻している英語という言語との出会いは、私が考えていた異国の文化や思想に対する寛容性を高め、物事をより広い視野でみる力、新たな価値観を授けてくれました。そして、今ここで共に成人を迎える旧友

たちはもちろん、未熟な私たちに対し、熱心に指導してくださった先生、いつも私を応援し、支え続けてくれた家族といった、これから先の人生においてもかけがえのない、大切な人たちとの出会いが、私の人生をより一層豊かにし、それと同時に、私自身を一人の人間として、大きく成長させてくれたのだと思っています。私はこれら一期一会の出会いに対する感謝の気持ちを、この場をお借りし、改めて申し上げます。

「本当にありがとうございます。」  
皆さんは「出会い」という言葉を聞いて、これまでの誰、もしくは何との「出会い」を思い浮かべるのでしょうか。

か。人それぞれ様々だと思います。しかし、その「出会い」によって得られたものが、これまでの人生を振り返った時に、重要な自分自身の一部となっていることに変わりはないでしょう。

ここにいる新成人の数だけストーリーの異なる人生があり、同時に数えきれないほどの「出会い」があります。その経験が今、春に大原の長堤を彩る、桜の花びらのように重なり合い、成人として、初々しく鮮やかな花を咲かせようとしているのです。それぞれが異なる十人十色の花びらで、不器用ながらに自らを表現しているのです。誰一人、何一つ欠けても花は咲きません。全ての「出会い」が私たちをここまで導いてくれたのです。

私たちはまだ咲き始めたばかりです。これから先の人生においても、多くの素晴らしい「出会い」が私たちを待っています。新たな「出会い」に期待を膨らませつつ、それを自らの夢や目標を実現するための糧とし、将来日本の未来を担うに相応しい満開の花となるよう、飽くなき向上心

な病態にある患者にとつて、それは当たり前のことではないのです。そのような人たちに対し、温かく寄り添う療法師の姿は、とても眩しく、心を打つものでした。同時に私も、患者に信頼され、現場に不可欠な人材とれるよう、思いを強くしております。

自分がこれまで専念することができた背景には、ひとえに、家族や友人たちの存在がありました。特に家族においては、現在も様々な面で支えられていることを実感しております。常に感謝の気持ちを忘れず、これからも少しずつ、恩返しをしていけたらと思っております。

かけがえのない仲間たち、金ヶ瀬中学校の皆さん。本日は、久方振りにお会いする人もあり、大変嬉しく感じています。小中学校と、9年もの間、同じクラスで過ごし、家族同然の皆さんとの思い出は、感謝と笑顔しかありません。本日は心ゆくまで、懐かしい思い出話を花を咲かせましょう。

これから先、それぞれの夢や目標に向かうなかで、様々な困難や苦悩の壁にぶつかるときが来るでしょう。そのようなときは、目を背けずに、立ち向かいましょう。たとえ結果が失敗であったとしても、それは必ずや、かけがえのない経験、あるいは、自己を乗り越えるきっかけとなり、意味のあるものとして、将来へと繋がっていくはずですよ。



柘 理菜子さん  
(上川原区)

感謝の気持ちを忘れずに



▲長期間にわたり準備を重ねてきた実行委員の皆さん。当日も司会進行や受付など、自分たちで成人式を盛り上げました。



今年大原町の成人式に参加された新成人は、町外から出席されたかたも含めて204名(男性116名/女性88名)。久しぶりの再会を喜びとともに、成人としての自覚と、将来への決意を新たにしています。



恩師からのビデオレターに自然と笑みがこぼれました。



懐かしさに、思わず大はしゃぎ。